

地方小出版
情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

アテネ書店郷土書専門店、松山にオープン

★★★ 地方の書店が地方の出版社の本を売るという まったく新しい試みに挑戦!

文・松岡 省自



昭和53年に紀伊國屋書店が松山中心地に出店し、今年7月で32年の歴史に幕を下ろした。地元新聞は閉店を惜しむ声を何回か紙面に載せたが、撤退理由については歯切れが悪い。松山の知識人に言うておこう、「あなたたちが、紀伊國屋で新刊を買わなかったせいだ!」と。9月、同じビルにジュンク堂が出店する。(その後、紀伊國屋書店も元の店舗の程近くで30坪の「仮営業所」を開店。近い将来の再出店への布石を打った!)

さて、紀伊國屋書店出店の前年にターミナル駅の裏からのびる商店街に売り場面積10坪ほどの小さな書店ができて33年が過ぎた。近くに『坂の上の雲』の主人公のひとり正岡子規の「子規堂」があって観光客がよく訪れる。これが当店の始まりで、直営店舗を3店まで増やしてきた。

爆発する出版点数、読者ニーズを捉えきれない出版社と出版企画、結果としての返品増加。販売が増えない中

でのアイテム数の増加。これに対し書店の売場面積には限界がある。現状では中小店にとって店舗の拡大は資金的に不可能だ。それとは別にIT技術の発展が、現状にとどまることを許さない。Googleが計画する全文検索や動画がさらに浸透すれば、大きな影響を受けるのは間違いない。加えて、これか

らは本格的に日本の人口が減少し、少子高齢化が読書人口減少に輪を掛ける。これからの30年は未体験の事態が進む。

●地元出版物専門家を構想

さてわが店はどうするのか。雑誌専門店・古書併売・レンタル本屋など、本に対する知識が活かして持続可能な業態を考えてみた。だが、どれも満足な結論には至らない。そして行き着いたのが地元出版物の販売と別のサービス業の合体方式だった。自費出版のお手伝いやインターネットでの資料収集の代行と、考えればなんでもあるではないか。

さいわい松山市には、書籍を発行している愛媛県文化振興財団・愛媛新聞社・創風社出版・晴耕雨読・アトラス出版の5社が存在する。(遠くない将来には、地方小さんの協力を得て全国の地方出版物もぜひ販売してみたい。川上社長、その節はよろしくお願ひし

ます!)

さて、本を管理するのは、他業種よりも面倒である。一般の流通は入荷・販売の2つで、返品は例外である。書店では入荷・販売・返品の3つが日常業務となる。地方小などの取次店は入荷・出荷・返品・版元返品と4つもの業務があって気の毒なくらい。先んじておこなうべきはこの煩雑な処理を、最少の時間と未経験社員でも間違いなく済ませられるシステムの構築だった。仕入・販売・支払・人員の総合的な管理が可能なソフトの開発のことである。

●DIYで改装、4月にオープン

昨年9月に店を閉め、返品に入る。返品で戻った資金で改装業者に頼む手もあったが、自分でやることにした。DIYで楽しみながら、以前働いていたアルバイト君とふたりでコツコツ仕上げた。しかし残る2店舗の1店は私の担当だから、一日中改装というわけにはいかない。昼は作業、夕方から11時までには店頭で販売というのを何十日か続けていた日、腰に妙な感覚が走って動けなくなってしまった。みんなの年寄りの冷や水との視線を受けつつ歯がゆい気持ちでいたが、数日で回復した。壁クロス張りなど手が6本必要なときは、2階のアトラス出版中村社長の2本の手も借りた。新年早々の開業を予定していたが、無償で店の床・トイレ・柱を張ってあげるといふ石屋さんの都合に合わせ、3月末に予想より立派に完成、4月1日から営業を開始したのである。

●読者に喜ばれる空間を創ってみたい

地方文化が見直されて久しい。地方出版が盛んになると考える人も多いが実態は違う。今、わが店にある流通中の地方出版物は400点ほどである。この中にはISBNがないものもある。愛

媛県下の出版社の年間出版点数はどんなに多くても70点程度だろうから、全国の出版点数7万点から見れば0.1%だ。愛媛県は1%経済といわれる、この数字をどう見るか。しかし、県下出版社の流通書籍をほぼ全点販売できるのはとても気分爽快である。仕入れた商品を管理し売るといふ書店本来の

姿に戻り、読者に喜ばれる空間を創ってみたい。「書店は楽しくなくてはいけないのじゃないか」との思いである。さあ後は地方で頑張る出版社が、未永く読まれる本を出版し、永続するのを期待するのみである。

この11月から、NHKで「坂の上の雲」のドラマが始まる。全国から多く

の坂雲ファンが松山を訪れ、子規堂を訪ねることだろう。その際は、ぜひ「アテネ書店郷土書専門店」をのぞいてみてほしい。

(まつおか しょうじ/アテネ書店(株) 代表取締役)

〒790-0023 愛媛県松山市末広町18-8
TEL. (089) 946-2307

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

『出産適齢期 一産まれくる幼子が健やかであるように』 ●江木佐織著



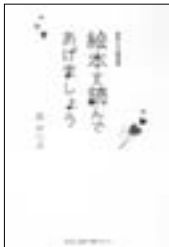
著者の叔母は、50年以上続けた助産師であった。本書は、この助産師の叔母が様々なお産と子育てについての問題提起するという内容のフィクション。母子とも安産であるために初産のベスト年齢は23歳といわれている。

出産適齢期が20歳代だとしたら、それはあまり若くあまりにも短いと著者は言う。しかし、出産には適齢期があるということを受け止めて、若

くても安心して生めるように、また高齢出産でも安産できるような母体づくりなど、社会全体でお産や子育ての環境を考えるとときがきていると提案している。お産を理解できるように、資料や情報も掲載されている。

◆1575円・四六判・255頁・壮神社・埼玉・2009/5刊・ISBN978-4-903260-41-9

『絵本を読んであげましょう 一森ゆり子講演録』 ●森 ゆり子著



NPO法人「絵本で子育て」センター代表の森ゆり子さんの絵本で子育てする楽しさ、素晴らしさを教えてくれる講演の記録です。テレビ・ビデオなど電子機器に頼る子育てが、子供の発達に害があることは周知のことです。一方お父さんやお母さんなど親しい人の肉声で、その体温を感じながら読んでもらう絵本は、幼い子供の心の栄養であり、温かくてたくましく賢い人への成長を促しま

す。本書は、絵本が子育てにいかにも有益であるか、絵本の選び方、絵本の活用の仕方など、わかりやすく具体的に解説してくれています。テレビを消して、子供を膝に乗せて、たくさんたくさん絵本を読んであげてください。

◆1200円・四六判・138頁・「絵本で子育て」センター・兵庫・2009/7刊・ISBN978-4-903607-04-7

『かつて、日本に旧制高等学校があった 一そのロマンと残照』 ●手束 仁著



「今の若い者はアカンわ。ロマンがないわ、人生を語る思いがないわ」。80歳で死去した父の遺品を整理していた著者は、眩いばかりの青春の輝きと矜持が横溢した旧制山口高校時代のアルバムに、えも云われぬ衝撃を受け、父の口癖が鮮烈に甦る。父の精神を育んだ旧制高校とは何だったのか。父への思いは、旧制高校の存在を伝えたいとの使命感に変わる。帝国大学への進学を保障し

たエリート養成機関としての設立経緯を踏まえ、教授陣、スポーツ活動、旧制高校の象徴としての寮生活と寮歌の有り様を探り、そこに、戦後教育で失われてしまった、本当の意味での教養教育と、自由な人間形成が行われていたことを明らかにする。

◆2100円・四六判・227頁・蜜書房・東京・2009/8刊・ISBN978-4-903600-15-4

『平泉藤原氏』 ●工藤雅樹著



平泉藤原氏は辺境の地に、いかにして政権を樹立し得たのか。著者によれば、藤原氏が目指したものは、辺境地方政権として自立することであったという。そればかりでなく、平泉藤原氏滅亡によって、その仕組みがすべて瓦解してしまったのではなく、これを征討した源頼朝こそが、後継者であったとも指摘する。事実、辺境地方政権を併合した鎌倉幕府は、蝦夷管領や奥州総奉行などの

制度や、北方交易システムは平泉藤原氏が築いたものを継承している。こうした平泉藤原氏による政権樹立の過程を、原風景としての東北古代文化から、律令時代、安倍・清原氏時代を前史とし、アイヌ文化、さらには中国文化との関係にまで及ぶ北方の視点で描き出したものである。

◆1890円・四六判・292頁・無明舎出版・秋田・2009/6刊・ISBN978-4-89544-502-3

売行良好書

期間：2009年8月16日～9月15日

【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1) 『ジーンとばあちゃんとだんごの木』 1575円・あるまじろ書房
- (2) 『イエスの涙』 1995円・アートヴィレッジ
- (3) 『ゆりちかへ』 1365円・書肆侃侃房
- (4) 『このラッパだれのかな』 1050円・瑞雲舎
- (5) 『小説家の開高さん』 1800円・フライの雑誌社
- (6) 『いぬのおまわりさん』 1470円・不知火書房
- (7) 『冷凍しておくと、便利なおかず』 1260円・ベターホーム出版局
- (8) 『ダラエメールの子供たち』 2625円・石風社
- (9) 『ことばの贈りもの』 1470円・東京子ども図書館
- (10) 『昆虫の図鑑 採取と標本の作り方 増補改訂版』 3675円・南方新社
- (11) 『子どもを生きれば おとなになれる』 2100円・アスクヒューマンケアー
- (12) 『中原中也と維新の影』 2310円・弦書房



【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1) 『東京かわら版 9月号』 420円・東京かわら版
- (2) 『谷根千 幻の94』 525円・谷根千工房
- (3) 『決戦！ 八王子城』 735円・揺籃社
- (4) 『谷根千 93』 525円・谷根千工房
- (5) 『龍馬・新撰組が駆けつけた幕末京都めぐり地図』 680円・ユニプラン
- (6) 『昭和プロレスマガジン 18』 1000円・昭和プロレス研究室
- (7) 『よみがえる滝山城』 735円・揺籃社
- (8) 『WALK 58』 720円・水戸芸術館
- (9) 『幕末史研究 43』 2000円・小島資料館
- (10) 『絵図で歩く岡山城下町』 1575円・吉備人出版

【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『HB vol. 05』 500円・HB編集部
- (2) 『酒とつまみ 第11号』 400円・酒とつまみ社
- (3) 『イエスの涙』 1995円・アートヴィレッジ
- (4) 『あなたの知らないタロット占い』 2625円・魔女の家BOOKS
- (5) 『南極料理人の悪ガキ読本』 1575円・亜瑠西
- (6) 『本の手帳 第7号』 1050円・本の手帳社
- (7) 『なぜ、北海道はミステリー作家の宝庫なのか?』 1680円・亜瑠西
- (8) 『ストコランド日記』 1600円・本の雑誌社
- (9) 『HOT CHILI PAPER Vol. 54』 1500円・エイチ・シーピー
- (10) 『ねずみ花火』 1470円・ピリケン出版

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

トピックス — ★★

▼三省堂地方小出版コーナーが拡充

三省堂神保町本店4Fの地方小出版コーナーが9月下旬リニューアルし、地方出版棚が1本分、約250冊ほど増える予定。また毎年夏のお盆の時期に開催されていた地方出版フェアが、今年は年末年始に行われることになりそうです。

▼「書肆ユリイカの本」展


本の手帳7号が8月に入荷しました。特集は「豆本女子2」。

- 「壊れない豆本を」 田中菜
- 「豆本四年目小さいことはいいことだ」 葉原あきよ
- 「夢を形にしてくれる豆本」 吉沢深雪
- 「ミウラ折りの豆本」 相沢LEE美和子
- 「いとしのミニサイズ」 小林映子
- 「豆本作りは自分さがし」 月井禎子
- 「豆本詩人は夢を見る」 流川透明・等々の内容。責任編集の田中菜さんは紅梅堂というご自分の出版社から『田中菜の古本教室』(300円)『書肆ユリイカの本』(500円)という冊子を出していますが、8月に青土社から図版380点を収載した上製本『書肆ユリイカの本』(2520円)を上梓されました。記念イベントとして「書肆ユリイカの本」展が開催されます。田中さんが10年かけて蒐集してきた書肆ユリイカの本300冊が展示。『書肆ユリイカの本』署名落款印入・オマケ付本を販売すること。会期：2009年10月4日～11日 会場：千代田区神田小川町3-22 東京古書会館2階ギャラリー、入場無料。また10月9日～11日まで「田中菜の豆本ワークショップ」が行われる予定。こちらは要予約(TEL.045-431-1260)、参加費3500円(材料費込)。

郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
 - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
 - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター
FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM～8:00 PM
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
 TEL. 03-3233-3312(代)
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

